

第三期中期目標期間業務 実績評価

■ 第三期中期目標期間業務実績評価

全体評価：中期計画の達成に向け、 『優れた業務の達成状況にある』（A評価相当）

○ 高く評価すべき事項

- ・ 東京都立産業技術研究センター(以下「都産技研」という。)は、研究開発と技術支援の両面で様々な事業を展開し、各目標値の達成や中小企業の製品化等に貢献しており評価できる。
- ・ 東京都の施策と連携し、I o Tや5 G、ヘルスケアなどの多くの分野でプロジェクト事業を展開し、中小企業への支援を充実させ、実績を出してきたことは評価できる。
- ・ 研究開発については、重点技術分野の研究開発を進め、基礎研究から共同研究等への成果展開などに取り組んでいる。また、都産技研の総合力を生かした「協創的研究開発」を新たに開始するなど、研究開発力の強化に向けた取組を行っており高く評価できる。
- ・ 技術支援については、技術相談、依頼試験、機器利用いずれも高水準の実績を達成している。また、ブランド試験の技術分野の実施による質的な向上に加え、3 Dものづくりセクターをはじめとして、各セクターの特色を活かし、コロナ禍により顕在化した中小企業の新たなニーズに即したきめ細かな支援を展開しており評価できる。

○ 改善・充実を求める事項

- ・ 5 G技術を活用した支援などの先端的な取組や、S D G s、ゼロエミッションを踏まえた取組を推進するとともに、具体的な取組成果を対外的に発信していくことが望まれる。
- ・ 東京都のD X化をリードするべく、産技研自身のD X化を積極的に進める取組を講じていくことが望まれる。

■ 第三期中期目標期間業務実績評価

中期目標を達成するために取るべき措置	項目番号	年度評価					中期目標期間評価	
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	見込評価	期間実績評価
		I 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置						
基盤研究	1	A	A	S	S	S	S	S
共同研究	2	B	B	A	A	A	A	A
外部資金導入研究・調査	3	B	B	A	S	S	A	A
ロボット産業活性化事業	4	A	A	A	A	A	A	A
生活関連産業の支援	5	B	B	B	B	A	B	B
技術相談	6	B	B	B	B	B	B	B
依頼試験	7	A	A	A	A	A	A	A
機器利用サービスの提供	8	A	A	A	A	A	A	A
3Dものづくりセクター	9	S	S	S	S	A	S	S
先端材料開発セクター	10	A	A	S	A	A	A	A
複合素材開発セクター	11	B	A	A	A	B	A	A

オーダーメイド開発支援	12	A	A	B	B	A	A	A
製品開発支援ラボ	13	B	B	A	A	A	A	A
実証試験セクター	14	A	S	A	A	A	A	A
技術経営支援	15	S	A	A	A	A	A	A
技術審査	16	S	A	A	A	A	A	A
海外展開技術支援	17	A	A	A	A	A	A	A
産学公金連携による支援	18	A	A	B	B	B	B	B
行政及び他機関との連携	19	B	B	B	B	B	B	B
産業人材の育成	20	B	B	B	B	B	B	B
情報発信・情報提供	21	A	A	B	B	A	B	A
II 業務運営の改善及び効率化に関する事項								
組織体制及び運営、効率化、経費削減	22	B	B	B	C	B	B	B
III～VIII 財務内容の改善に関する事項、その他業務運営に関する重要事項等								
適正な資産管理等	23	B	B	B	B	B	B	B
危機管理対策、社会的責任	24	B	B	B	B	B	B	B

S評価：2個、A評価：14個、B評価：8個

■ 第三期中期目標期間業務実績評価

項目 1 基盤研究

S（中期目標の達成状況が極めて良好である）

- 第三期中期目標値に対する実績は累計159件となり、目標を上回った。
- 重点的に取り組むとした4つの技術分野については、基盤研究364件のうち、306件を実施しており、第二期よりも約2倍の重点化を行っている。
- 基盤研究制度改革の推進や、協創的研究開発を新たに開始するなど、都産技研全体で研究を推し進める取組を実施した。

⇒第三期中期計画を通じて、基盤研究の量的・質的向上が図られ、結果として中期計画目標値を超える実績を出していることは高く評価できる。

今後は、第四期中期計画に基づき、基盤研究の成果を積極的に中小企業に還元していくことを期待する。

項目 2 共同研究

A（中期目標の達成状況が良好である）

- 中小企業等との共同研究により製品化・事業化した件数は累計54件と、中期計画目標値を上回っている。
- 中小企業へのI o T化支援を全国の公設試に先駆けて新たに取り組むなど、D X化の時代を見据え、早期に支援体制の構築及び支援を実施している。

⇒中期計画目標値を超える実績を上げ、時代を先取りした支援を行ってきたことは評価できる。

引き続き、先端的なテーマに関する支援環境を整え、中小企業への技術支援を推し進めていくことを期待する。

■ 第三期中期目標期間業務実績評価

項目3 外部資金導入研究・調査

A（中期目標の達成状況が良好である）

- 戦略的な外部資金獲得活動の成果として、中期計画目標値70件を超える192件の実績を達成している。第二期の平均採択件数と比べ、第三期は2倍以上の平均採択件数を達成している。
- 外部資金を獲得するため、所内全体の取組日程の見直しや所外からの講師招聘など、戦略的に取組を実施している。

⇒戦略的に外部資金獲得活動を進めたことで、中期計画目標値を超える実績を上げたことは評価できる。
引き続き、職員の育成を進め、外部資金の獲得への取組を継続することを期待する。

項目4 ロボット産業活性化事業

A（中期目標の達成状況が良好である）

- 中小企業等との公募型共同研究等により、製品化・事業化を34件達成した。
- ロボット産業の人材育成に向け、SIer（システムインテグレーター）育成事業やセミナー、講習会を実施した。
- 大規模展示場などにおいて実証実験などを行うことで、ロボットの社会実装・普及に向け取り組んだ。

⇒多くの製品化・事業化を達成するだけでなく、社会実装に向けた支援も実施していることを評価する。
今後ともロボット分野に加え、IoTや5Gも含めた総合的な技術支援を行っていくことを期待する。

また、新しい取組の成果について、積極的に情報発信を行うことを期待する。

■ 第三期中期目標期間業務実績評価

項目5 生活関連産業の支援

B（中期目標の達成状況が概ね良好である）

■ 全国の公設試験研究機関と連携し、各機関が保有する人間工学に関する機器の情報を横断的に提供するデータベースをウェブで公開しており、サイトの閲覧件数は着実に増加している。

■ 第三期中期計画期間に、新たに、生活動作計測スタジオ、ヘルスケア産業支援室を整備し、人間工学やヘルスケア分野など、新たな産業技術に関する製品化・事業化支援を実施

⇒引き続き、整備した設備を有効に活用し支援を継続するとともに、利用者のニーズに応じた機器を的確に整備し、技術支援を充実していくことを望む。

項目6 技術相談

B（中期目標の達成状況が概ね良好である）

■ 技術相談の実績はコロナ禍で実績が減少した令和2年度を除き、毎年度中期計画目標値を上回っている。

相談	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績（件）	138,165	136,666	139,835	141,673	

■ 専門相談員の設置や実地技術支援など、利用者に対してきめ細かい支援を行っている。

専門相談	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績（件）	128	215	257	190	94

⇒引き続き、支援を必要としている中小企業に対する丁寧な技術相談を実施されたい。

今後は、支援した企業の情報をデータベースとして整理し、都産技研の各種施策に活かすことができるようにしていくことを望む。

■ 第三期中期目標期間業務実績評価

項目7 依頼試験

A (中期目標の達成状況が良好である)

■ 中期計画上の目標としていた、ブランド試験の実施割合は中期計画期間を通じて目標を超える水準の実績を達成した。

ブランド試験割合	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績 (%)	31	32	34	33	35

■ 依頼試験の実績は、ほとんどの年度で第二期実績平均を超える実績を達成している。

依頼試験	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績 (件)	143,466	143,093	148,809	143,141	109,884

■ 中小企業のニーズに対応した依頼試験項目の改廃等を継続して実施している。

⇒多様なニーズを踏まえた試験内容の見直しを行いつつ、高い支援実績を上げていることは評価できる。

項目8 機器利用サービスの提供

A (中期目標の達成状況が良好である)

■ 第三期中期目標期間で、第二期中期目標期間の平均実績を超える高い機器利用実績を達成している。

機器利用	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績 (件)	134,285	144,737	157,541	140,901	103,425

■ 機器利用ライセンス制度の利用促進や、Webでの機器予約情報の提供など、利用者の利便性向上に向けた取組を行った。

■ DX推進センターを新たに開設することで、5Gといった先端分野への支援にも積極的に対応した。

⇒中期目標期間を通じて高い利用実績を達成していることは評価できる。

今後とも、利用頻度などのデータを分析して、機器の充実・廃止などの見直しを計画的に実施してほしい。

■ 第三期中期目標期間業務実績評価

項目 9 3Dものづくりセクター

S（中期目標の達成状況が極めて良好である）

- 中期計画期間を通じて、中期計画目標値を超える高い支援実績を達成している。

依頼試験+機器利用	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績（件）	24,448	24,033	28,209	36,202	24,184

- 3Dものづくりセクターにおける支援で、中小企業の製品化プロセスの短縮に寄与している。また、コロナ対策製品など、コロナ禍で生じた新たな製品の開発に向けた試作にも貢献している。

⇒中期計画目標値を超える高い支援実績を出していることは高く評価できる。

今後とも、造形技術の進歩に合わせた施設や機器、職員のレベルアップを継続することを望む。

項目 10 先端材料開発セクター

A（中期目標の達成状況が良好である）

- 新型コロナの影響があった令和2年度を除けば、中期計画目標値を超える実績を達成している状況が続いている。

依頼試験+機器利用	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績（件）	5,792	5,487	7,876	8,001	6,651

- 論文掲載や特許出願といった研究面での成果も着実に出している。

⇒中小企業支援の面で中期計画目標値を上回る実績を出しつつ、研究面でも成果を積み重ねていることは評価できる。

■ 第三期中期目標期間業務実績評価

項目 1 1 複合素材開発セクター

A（中期目標の達成状況が良好である）

- 中期計画期間中に、中期計画目標値を超える支援を実施している。

依頼試験+機器利用	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績（件）	15,854	19,731	20,176	23,083	12,804

- 複合素材開発セクターを開設し、繊維強化プラスチックをはじめ、機能性材料を多数開発している。

⇒中期計画目標値を超える支援実績を上げたことは評価できる。

項目 1 2 オーダーメイド開発支援

A（中期目標の達成状況が良好である）

- 中期計画目標値を上回る支援実績を継続して達成しており、多くの製品化事例を創出している。

開発支援	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績（件）	450	520	504	592	463

- 中小企業のニーズに的確に対応した支援を実施し、アウトカム調査において目的達成度が平均94.7%と高い数値を達成している。

⇒継続的に目標値を超える実績を達成したことは評価できる。

第四期中期計画では、新たに開始するオーダーメイド型技術支援を通じて、一層、製品化・事業化支援を進めていくことを期待する。

■ 第三期中期目標期間業務実績評価

項目 1 3 製品開発支援ラボ

A（中期目標の達成状況が良好である）

- 本部、多摩テクノプラザとともに中期計画期間中の平均入居率が90%以上を達成しており、ラボマネージャーが中心となり、技術面のみならず、イベント出展などの支援を行うことで、製品化の促進や売上増加につなげることができている。
- ものづくりベンチャーの支援に向けた支援施設の整備を行うことで、新たなニーズに対応できるようにしている。

⇒ラボ入居企業に対する支援を充実させ、結果に表れていることは評価できる。

項目 1 4 実証試験セクター

A（中期目標の達成状況が良好である）

- 中期計画期間を通じて、中期計画目標値を上回る利用実績を達成している。

依頼試験+機器利用	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績（件）	68,123	74,969	70,891	62,481	60,008

- 環境試験機器の大幅なリニューアルし、紹介動画を作成するなど、利用者ニーズを踏まえた環境整備を行うとともに、利用率の向上に向け積極的に情報発信を行っている。

⇒中期計画目標値を超える利用実績が出ており、利用者目線に立った支援を行っていることは評価できる。

■ 第三期中期目標期間業務実績評価

項目 1 5 技術経営支援

A（中期目標の達成状況が良好である）

- 知的財産権の実施許諾件数は中期計画期間累計59件であり、中期計画目標値を超える実績を上げている。
- 中小企業振興公社等との連携により、セミナーや実地技術支援を着実に実施している。

⇒実施許諾件数が中期目標期間を超える実績であることは評価できる。

今後、中小企業振興公社との連携を一層推進し、支援の充実を図ることを期待する。

項目 1 6 技術審査

A（中期目標の達成状況が良好である）

- 技術審査について、東京都をはじめとする団体等から事業を受託することで、第二期よりも多くの技術審査を実施しており、積極的な技術審査への協力が実績として表れている。

技術審査	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績（件）	5,200	5,508	5,859	5,667	5,141

- 職員が研修に参加するなど、不断の技術審査能力の向上を図っている。

⇒技術審査件数が前期よりも高水準で推移していることは都産技研が多方面に一層貢献していると分析でき、評価できる。

■ 第三期中期目標期間業務実績評価

項目 1 7 海外展開技術支援

A（中期目標の達成状況が良好である）

- 中期計画目標値を超える実績を継続して達成している。

依頼試験	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績（件）	6,087	6,649	6,358	6,007	5,387

- 専門相談員でオンライン相談を開始し、海外規格解説テキストを新たに作成するなど、支援の質の向上にも取り組んでいる。

⇒中期計画目標値を超える実績が出ていることは評価できる。

昨今の情勢を踏まえ、オンラインを積極的に活用するなどにより、継続して支援していくことを期待する。

項目 1 8 産学公金連携による支援

B（中期目標の達成状況が概ね良好である）

- 毎年度ビジネスマッチング会を主催し成約につなげており、中小企業にとって有益なマッチングの場が提供できている。

- 大学との連携をはじめ、金融機関など多様な主体との連携支援に積極的に取り組んでいる。

⇒今後、産学公金の連携を一層進めることで、中小企業支援の充実を図ることを望む。

■ 第三期中期目標期間業務実績評価

項目 1 9 行政及び他機関との連携

B（中期目標の達成状況が概ね良好である）

- 大学や自治体など多様な機関との連携協定の締結を進め、セミナーや技術審査など様々な貢献を行うことで、都産技研の利用促進に努めている。
- 「東京手仕事」プロジェクトなど、中小企業振興公社等と連携し、技術と経営の両面から支援を行い、製品化に貢献している。

⇒今後とも、協定締結機関との連携事業を充実するなど、中小企業に対する技術支援を積極的に実施していくことを望む。また、中小企業振興公社との連携による技術と経営の両面からの支援は重要であり、一層の充実を望む。

項目 2 0 産業人材の育成

B（中期目標の達成状況が概ね良好である）

- 技術セミナー等は毎年度継続して実施しつつ、アンケート結果を踏まえた質の向上にも取り組んでいる。

技術セミナー等	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績（件）	174	176	152	124	66

- 研修学生やインターンシップの受入を積極的に実施し、次世代の産業人材育成を進めている。

学生受入	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績（件）	26	26	35	25	22

⇒新型コロナ終息後も、オンラインによるセミナーなど人材育成の取組を実施していくことを望む。また、セミナー等を実施する職員側がオンラインで説明する力等を向上させていくことが必要である。

■ 第三期中期目標期間業務実績評価

項目 2 1 情報発信・情報提供

A（中期目標の達成状況が良好である）

- プレス発表を積極的に実施したことで、記事掲載率も高水準となっており、効果的な情報発信が行えている。

記事掲載率	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
実績(ウェブ) (%)	71	67	93	97	83
実績(新聞等) (%)	54	56	78	91	83

- 動画投稿サイトへの動画投稿を積極的に行うなど、インターネットを活用した広報活動を強化している。

⇒これまでの取組を基に、都産技研の認知度を一層向上させていくため、戦略的な広報活動を職員が一体となって、これまで以上に推進していくことを期待する。

項目 2 2 組織体制及び運営、効率化、経費削減

B（中期目標の達成状況が概ね良好である）

- 内部統制及びコンプライアンスに関する取組を進めるため、内部監査部の設置などの組織体制整備を着実に進めている。

- 5Gやヘルスケアといった新たな技術ニーズに即応した支援組織を立ち上げている。

⇒内部監査部を中心としてコンプライアンス遵守の取組を強化するとともに、常に組織体制の見直しを行い、柔軟かつ安定的な執行体制を整備することを望む。

■ 第三期中期目標期間業務実績評価

項目 2 3 適正な資産管理等

B（中期目標の達成状況が概ね良好である）

- 建物、施設について計画的な維持管理を行い、設備機器は的確に校正等を実施している。
- 施設・設備の整備に当たっては、先端技術への対応（5 Gなど）や省エネルギー対策を含めた長期的視点に立って実施している。

⇒引き続き適切に施設・設備の管理を実施されたい。

項目 2 4 危機管理対策、社会的責任

B（中期目標の達成状況が概ね良好である）

- 危機管理対策としてコンプライアンス研修や防災訓練といった基礎的な取組を着実に実施している。
- 社会的責任を全うできるよう、情報公開や環境への配慮などの取組を確実に実施している。

⇒引き続き、事故・事件を未然に防止できるよう、関係法令の遵守・徹底に努められたい。

また、業務のDX化に合わせて、サイバーセキュリティ対策を十分に講じられたい。

SDGs やゼロエミッションを意識した取組についても、積極的に進め、他の都施設を牽引していくとともに、具体的な取組成果を対外的に発信していくことが望まれる。